

エリクソン先生をはじめ、講師の先生方のエビデンスに基づいた、かつユーモアあふれるレクチャー、そして、多少にわか雨などもありましたが、全般的に過ごしやすく、充実したマルメ研修であったことに、講師の先生方はもちろん、熊谷先生をはじめ、通訳をしていただいた西先生、岩上さん、司会進行や熊谷先生のメッセージを伝えていただいた加藤先生、企画運営された全ての方々に、感謝いたします。

研修では、まず歯科医療の哲学を教えてくださいました。そして、帰国後、私がすべき事を明確にさせていただきました。

研修に参加する前、私なりの歯科医師としてのスウェーデンのイメージは、「税金が高いが、高福祉国家で、国民が全体が、歯科医療を含めた健康に対し、意識が高く、歯の寿命が長い」といったものでした。もちろん、健康意識の高い方もいらっしゃると思いますが、必ずしも全員がそうわけでもなさそうでした。この意味では、日本もスウェーデンでも一緒だと感じました。では、その大きな相違点は何か？まず1点めは、国民全体の意識というより、歯科医療従事者、医療関係者が信念をもち、公的な機関（行政・政治家など）と連携していること。2点めは、各クリニックにおいて、リスクアセスメントを用い、患者が行動変容するべく努力している結果だと感じました。もちろん、1週間の限られた研修の中では、理解できないことも多く、事前にスウェーデンの国の歴史・文化・人々の考え方などもっと学習しておけば、もっと理解し易くなったかもしれません。（今後、マルメ研修に初めて参加される方には、お勧めします。）税金・医療システムなど様々な相違のある日本に、そのままその良さを導入するのは、確かに難しいとは思いますが、「歯科医療への哲学・使命感をもって途切れることなく継続して取り組めば、変革不可能なものはない！」と思います

PBLを用いた大学教育の方法も大変興味深いものでした。同時に大学教育の中で適切な臨床試験実習が行われ、経験は浅かったとしても、ある程度技術と知識を伴って診療に携わることができるように教育が行われている。これは、日本でも見習うべきことだと思います。同時に、個々の歯科医院での日々の臨床で院内教育など応用できる素晴らしい方法であったと思います。

また、酸蝕症、インプラント周囲炎など、古くからの著名なものから、最新のものまで、確かなエビデンスに基づき多岐にわたる講義が続き、非常に多くの有益な知見を学ぶことができました。

今回の貴重な経験をもとに、明日からの歯の寿命を延ばし、患者の幸福に寄与できるよう頑張っていきたいと闘志が沸々とわいてきました。